

2019年5月5日

福音書からのメッセージ

イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目である。
(ヨハネによる福音書21章14節)

聖書はイエス様の復活を、様々な形で報告します。復活の朝にはマグダラのマリアの物語が語られます。その夕方にはユダヤ人を怖がり、部屋の中に閉じこもっていた弟子たちに、さらにその八日後にはトマスのもとにも、復活のイエス様は来られました。それらの場面で復活のイエス様に出会う人たちは、悲しみや恐れ、疑いや戸惑いの中におりました。しかし今日の場面は、少し感じが違います。

今日の箇所には、7人の弟子が出てきます。前回のように狭い部屋で隠れているわけではなく、彼らは漁をしていました。元々漁師だった彼らにとって、漁は日々の糧を得るための日常的なことだったのでしょう。そしてその場所に、復活のイエス様が来てくださったのです。そこにわたしたちも感じることができる大きな喜びがあるのです。

イエス様が天に召された後、2000年の間、たくさんの方が復活のイエス様に出会ってきました。人生に疲れたとき、希望を見失ったとき、絶望の中に叩き落されたとき、その中に一筋の光が見えて、それがイエス様だと感じた人もおられると思います。しかしイエス様は、決してつらい時にだけ来られるのではありません。

日常のふとした出来事の中で、となりの人の笑顔の中で、とてつもない喜びの中で、イエス様を感じ、復活のイエス様と出会うこともあるということを、今日の福音書は伝えています。それぞれが、それぞれの出会いをする。それが復活のイエス様との出会いであり、喜びなのです。

わたしは教会で子どもたちに祝福のお



祈りをするときに、このように言います。「悲しい時も、つらい時も、うれしい時も、楽しい時も、いつもイエス様がいてくださいますように」。どんなときでもイエス様がいてくださる。苦しい時も、喜びの時も、復活のイエス様が手を差し伸べてくださる。それがわたしたちに与えられた約束であり、

希望です。その確信をもって、わたしたちは歩んで行きたいと思えます。

もしもまだ、復活のイエス様を感じていないという方がおられたとしても、どうぞ信じてください。みなさんの元にも、イエス様は常に手を伸ばし、声を掛けてくださっているということ。復活のイエス様はわたしたちのところに来て下さり、喜びを届けてくださるのです。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」とイエス様は約束されました。イエス様が必要なときも、自分の力で歩けると思いこんでいるときも、いつもイエス様がいてくれる。

それが今日の福音です。わたしたちの日常の中に来て下さるイエス様を、わたしたちは感じていきたいと思えます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>